

社会科（公民的分野）学習構想案

期 日 令和4年11月18日（金）第2校時
 場 所 熊本大学教育学部附属中学校 実践センター
 学 級 熊本市立清水中学校3年1組 39名
 指導者 熊本市立清水中学校 教諭 山下大輝

1 単元構想

単元名	第4章 1節「消費生活と市場経済」（東京書籍 P.127～139）		
単元の目標	(1) 身近な消費生活を中心に、経済活動の意義について把握するとともに、現在の消費社会で起きている問題やその解決策について理解している。 (2) 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、個人や企業の経済活動における役割と責任や、現在の消費社会で起きている地域や人・社会、環境における問題の解決策について、多面的・多角的に考察し、表現している。 (3) 市場の働きと経済について、現在の消費社会で起きている地域や人・社会、環境の問題を解決するためのエシカル消費を通して持続可能な社会の形成に、主体的に参画しようとしている。		
単元終了時に期待する生徒の姿			
サークュラーエコノミー型の社会を実現していくためには、私たち一人一人がエシカル消費を行っていくことで、様々な社会問題の解決に関わり、企業や政府を動かしていく原動力となることが大事であると考えられる生徒。			
指導計画と評価計画（8時間取扱い 本時8／8）			
過程	時間	主に働かせたい見方・考え方と発問	身につけさせたい力 (知・技 / 思・判・表 / 態)
課題把握	1	【効率と公正】【希少性】 ・私たちは消費を行う際、なるべく安いものを求めるのはなぜか。	・消費を行うときには、収入と支出のバランスを考えて必要な財やサービスを購入する結果、なるべく安いものを買っていることについて理解している。（知技）
	2	【効率と公正】【分業と交換】 ・安さを求める消費者のニーズに応えるために、企業側はどのような工夫をしているのか。	・流通の合理化を行うことで、より安く効率よく消費者のもとに財やサービスを届けられることについて、流通の仕組みをもとに理解している。（知技）
単元を貫く課題：私たちは、どのような消費社会をつくっていくべきなのか？			
課題追究	3	【対立と合意】 ・消費者をめぐるこれまでどのような問題が起きてきたのか。	・消費者が不利益を受けた消費者問題が起きてきたことで、消費者主権の考えが広まってきたことを理解している。（知技）
	4 5	【対立と合意】【希少性】 ・私たちの消費のやり方によって、どのような問題が起きているのか。	・現在の消費社会で起きている問題を、地域や人・社会、環境などの視点から多面的・多角的に考察し、表現している。（思判表）
課題解決	6 7	【対立と合意】【効率と公正】 ・私たちの消費をめぐる地域や人・社会、環境の問題を解決するために、どのような消費を行っていくべきか。	・地域や人・社会、環境に配慮した消費により、社会の形成に主体的に参画しようとしている。（態度） ・欧州ではサーキュラーエコノミー型の社会に向けた取り組みで消費をめぐる問題を解決しようとしていることについて理解している。（知技）
	8 本時	【対立と合意】【効率と公正】 ・日本でサーキュラーエコノミー型の社会を実現させるために、家計・企業・政府のどこが最も努力すべきか。	・日本におけるサーキュラーエコノミー型の社会の実現のためには、一人一人がエシカル消費を通して様々な消費をめぐる問題の解決に関わり、企業や政府を動かしていく必要性について多面的・多角的に考察している。（思判表）

2 本実践のねらいと生徒の実態

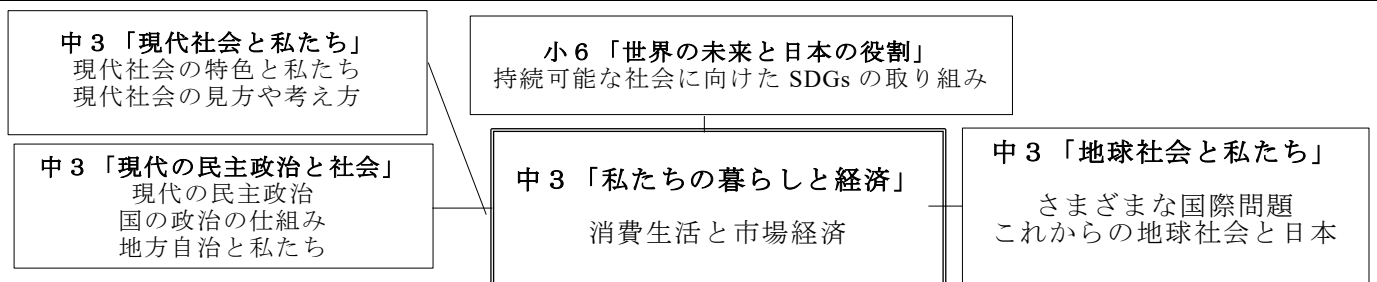
本実践（単元）のねらい

本単元は、学習指導要領の公的的分野における「B 私たちと経済」の「(1)市場の働きと経済」と「(2)国民の生活と政府の役割」にあたる。(1)では、人々が求める財やサービスを消費することで生活を成り立たせることが経済活動であり、人間の生活の維持・向上に意義があることを理解させることを主なねらいとしている。また、(2)では、「消費者の保護」が身に付けるべき知識として挙げられている。つまり、自立した消費者になるとともに、消費生活に関する行動が現在及び将来の世代にわたって内外の社会情勢及び地球環境に及ぼすことを自覚して、公正かつ持続可能な社会の形成に積極的に参画することを主なねらいとしている。

一方で、生徒の多くが消費についても値段や価格を基準にしており、自らの消費が様々な社会問題と関わっていることを認識している生徒は少ない。よって、大量生産・大量消費型の社会によって地域、人や社会、環境に様々な問題が起きており、その解決の在り方を多面的・多角的に検討させる必要がある。

ゆえに、本単元では、公正で持続可能な社会の形成のためにも、消費をめぐる様々な社会問題を解決し、地域、人や社会、環境などにも配慮したエシカル消費を行っていく必要があることを理解させたい。そのため、本実践では欧州におけるサーキュラーエコノミー型の社会の実現に向けた取り組みと日本の状況の比較を通して、一人一人がエシカル消費を通して様々な消費をめぐる問題の解決に関わり、企業や政府を動かしていく必要性について理解させたい。そのことによって、身近な社会問題の解決策や将来の社会の在り方を多面的・多角的に考察させるとともに、よりよい社会の形成に参画する資質や能力を育成するという教科のねらいを達成したい。

本単元における系統



生徒の実態（単元の目標につながる学びの実態）

■本単元を学習する以前の内容理解（単位：35人）

調査内容	よく	まあまあ	あまり	ない
「消費」について説明できる。	3	18	9	5
「公正」について説明できる。	20	6	6	3
「持続可能な社会」について説明できる。	12	8	3	15

■本単元の学習に関する意識の状況（単位：35人）

調査内容	聞いたことがある	聞いたことがない
エシカル消費という言葉聞いたことがありますか。	1	34
消費をする際に意識していることは何ですか。	○値段・価格・安さ（23） ○原産国・どの国がつくったものかを見る（4）	○その商品の品質（4） ○無駄なものを買わない（2）
私たちの消費によってどのような問題が起きていると思いますか。	○フードロス（6） ○円安の進行（2）	○税金が高くなる（4） ○使いきれない（2） ○ごみ問題（4） ○分からない（17）

■考察

- 持続可能な社会を環境の面で説明する生徒が多く、地域や人・社会に関する視点に乏しい。
- エシカル消費を知らない生徒がほとんどで、値段や価格を基準に消費をする生徒が半数以上いた。
- 消費による問題では食品ロスやごみ問題など環境に関連付けた生徒が多いが、地域や人・社会に関する問題と関連付けた生徒はいなかった。

3 指導に当たっての留意点

- 生徒が普段から食べる機会の多い卵や牛肉、穀物などの食材や身近にある店の工夫などを扱うことで、生徒が身近な消費生活と結び付きやすいようにする。
- 消費による社会問題を考えていく際には、SDGsの17の目標と結びつけていくことによって、それらの問題が日本だけでなく全世界共通の問題であることを認識できるようにする。
- ワークシートを図化したり表を使用したりすることで、私たちの消費が地域、人や社会、環境に影響を及ぼし、それらの解決が求められていることを、生徒が関連付けさせやすいように工夫する。

4 本時の学習

(1) 目標 日本におけるサーキュラーエコノミー型の社会の実現のためには一人一人がエシカル消費を通して様々な消費をめぐる問題の解決に関わり、企業や政府を動かしていく必要性について説明することができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項
導入	5分	1 前時の最後に選んだ努力すべき3つの経済主体の投票結果を把握し、その理由をそれぞれの立場で発表する。	○色分けしたロイロノートカードで提出させることで、それぞれの立場の数の違いを明確にできるようにする。
【学習課題】 日本でサーキュラーエコノミー型の社会を実現させるために、家計・企業・政府のどこが最も努力すべきか。			
展開	38分	2 それぞれの立場の意見に対して、質問を合せて議論を深める。 ① 自分とは異なる立場に対してグループごとに質問を考え、専用の用紙に記入する。 ② 質問を書いた用紙を前に貼り、質問の内容によって分類する。 ③ 質問の答えをグループごとに考える。 ④ 質問の答えを立場ごとに発表する。 ⑤ 追加の質問をしたり反対意見を述べたりする。	○立場ごとにグループをつくり、家計・企業・政府それぞれの立場で、他の立場の意見に対して質問を考える。 ○質問を考える際に、具体的な内容や方法、実現可能性などの視点を示して質問を考えやすくする。 ○出された質問は内容ごとに分類させ、答えるべき質問を焦点化していく。 ○企業が環境に配慮した商品を販売したり、政府が新たに法律を制定したりするには、家計（消費者）の求めがないことには動かないことに自分たちで気づかせる。生徒自身で気づかない場合は、教師側で支援する。
【追究課題】 サーキュラーエコノミーに向けた取り組みについて、日本と欧州では何が違うのか。			
		3 グローバル気候マーチの事例から、日本と欧州の消費者が既存の経済に在り方に対する考え方の違いを理解する。	○グローバル気候マーチへの参加者数の違いから、欧州の消費者は既存の経済の在り方を変えたいと思って積極的に行動するが、日本の消費者は既存の経済の在り方を問題視していないから行動に至らないことに気づかせる。
終末	7分	4 ダイヤモンドランキング（2回目）を行い、1回目と比較して、ランキングが変化した理由を個人でまとめる。	○単元の最初に行った消費の基準に関するダイヤモンドランキング再度行い、単元の学習を踏まえて自分の消費の基準を考え直させる。

(3) 評価

評価の観点	評価基準（予想される生徒の発言・記述）
思考・判断・表現	A：私たち一人一人がエシカル消費を行ったり環境などに配慮した商品や政策を求めたりしていくことで、企業や政府を動かして社会を変えていく必要があることを考え、表現している。
	B：私たち一人一人がエシカル消費を行ったり環境などに配慮した商品や政策を求めたりしていく必要があることに気づき、表現している。